

粘度計 SV シリーズ用ガラス保存容器 Glass Storage Container For SV Series Vibro Viscometer

AX-SV-38

取扱説明書 Instruction Manual

WM+PD4000924

日本語

1. はじめに

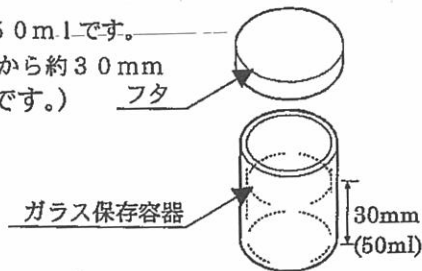
ガラス保存容器AX-SV-38は、粘度計SVシリーズで測定する試料液の保存に使用するものです。また、保存容器に試料を入れた状態での粘度の測定も可能です。

- 構成：ガラス保存容器（約50ml） 10個
（ホウケイ酸ガラス製、使用温度180℃以下）
フタ 10個
（PE（ポリエチレン）製）、使用温度80℃以下

2. 測定準備

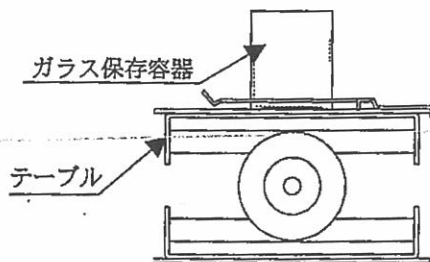
試料量の目安は約50mlです。

（ガラス容器底面から約30mmの位置が50mlです。）

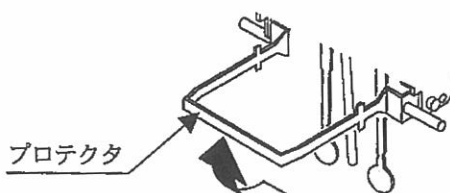


3. 測定方法

- ガラス保存容器をテーブルの上に置きます。

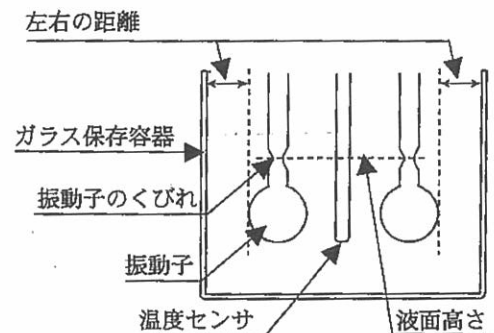


- ガラス保存容器で測定するときは、プロテクタを上げるか、取り外した状態で使用してください。



このプロテクタを上げるか、外すこと

- ガラス保存容器の内壁と振動子および温度センサが接触しないように注意してください。接触していると粘度表示値がばらつき測定できません。
- 振動子とガラス保存容器内壁との距離が左右同じになるようにガラス保存容器の位置を調整してください。保存容器の内壁がどちらかの振動子と近づくと、測定誤差の原因となります。
- 振動子のくびれ部中央に液面が来るように、テーブルの高さを調整してください。



4. ガラス保存容器を使用した場合の絶対値測定

粘度計本体は、標準付属のサンプル容器（35ml）にて粘度値が校正されています。サンプル容器とガラス保存容器とでは、振動子と内壁までの距離が異なり、振動子が感知する力（粘度値）に差が出ます。このため、ガラス保存容器を使用し、粘度の絶対値を測定する場合は、測定粘度値付近で校正することをお勧めします。（粘度計本体取説「6. 粘度校正」参照）

5. 測定後の注意

必要に応じてガラス保存容器を洗浄してください。洗浄が不十分で壁面に異物の付着がある場合、壁面と振動子が干渉し、測定誤差の原因となります。

AND 株式会社 **イーアンド・デイ**

本社 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-23-14

（ダイハツ・ニッセイ池袋ビル5F）

TEL03-5391-6126 FAX03-5391-6129